

檀信徒各位

秋季彼岸法要のご案内

聖名 豪雨や台風、地震に見舞われた夏も終わりを告げ、
秋のお彼岸を迎えます。

皆々様にはご健勝の事とお慶び申し上げます。

秋季彼岸法要を下記のように勤めます。

ご多忙の処とは存じますが、お繰り合わせご参詣下さいます
ようご案内申し上げます。 合 掌

平成22年9月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拜

記

※期 日 9月23日(木) 秋分の日

※時 間 午後1時より音楽法要・ご回向^{えこう}
午後2時よりコンサート

※ご回向料

普通回向 1霊 1,000円 以上 ご志納下さい。

※お供え米、お供え米料 随意ご志納下さい。

本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※コンサート 出演 勝田 友彰 氏(テノール)
カーラビンカ無量寺合唱団
勝田友彰発声道場門下生
曲 目 いのちの理由 坂の上の雲 この道
鐘が鳴ります サンタ・ルチア 他

大施餓鬼法要 7月15日

院号授与式



今回3名の方が院号を受けられました。

- 慈照院 熊丸 英美 殿
- 芳香院 中原 フクエ 殿
- 清光院 茅島 すみえ 殿

おめでとうございます。約7年間、法要の折に法話を聞かれて修養を積まれました。これからもご精進くださるよう祈念いたします。



久留米門中寺院ご随喜のもと厳修しました。



釈尊の生涯 誘惑

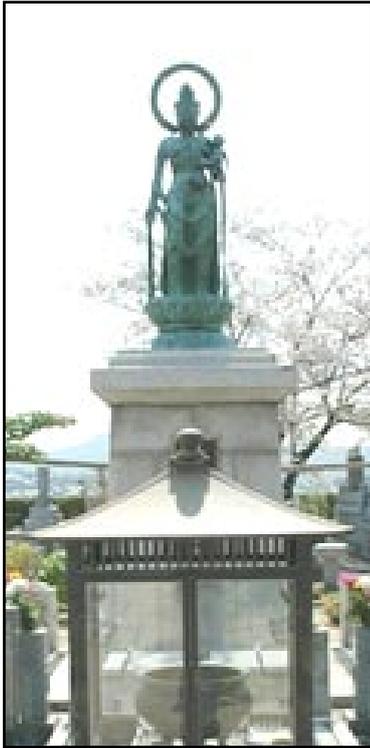
まず努め励む太子は「自分はやせていて顔色がわるい。生きた方がよい。命あつてこそあらゆる善行をなすことができるのだ。努め励んだところでなにになろう。努め励む道は行きがたく達しがたしい」という、現実と妥協しようとする心におそわれた。またときとして渇きと飢え、ねむけからくる生理的欲求を始め、魔

ピッパラ樹のもとで、深い思惟の人となつた太子はいくたびとなく悪魔の誘惑におびやかされた。出家の目的を果たそうとする太子の心をぶらさたり、在俗の生活にひきもどそうという働き、しかもそれは決して外からの働きかけでなく、むしろ太子自身の心のなかからとめどなくわいてくる働きであつた。

のはたらきかけに負けそうなる自分にたいする自己嫌悪、出家の出家の志をはたしてみたとすことができるだろうかという疑惑など、次から次へと魔の誘惑におそわれた。

これらの魔にうち勝つことは、「たとえ戦場においても、幾千の敵にうち勝つよりも、己一人にうち勝つもの、それはまことの勇者である」といわれるように、自分の心の中にひそんでいる魔にうち勝つことは容易なことではなかつたが、一つ克服すればまた次の魔を克服する勇氣と自信がわきおこってきて、ついにすべての魔にうち勝つにいたつた。じつは、この魔は釈尊その人の精神的葛藤を意味するものであつたのである。

14 日会（念仏と写経の会）



- 1、日 時 毎月第 3 土曜日但し、8 月はお休み
午後 3 時より勤行とお念仏
（日常勤行式 浄土宗のお勤め）
引き続き 写経会

※お勤めだけ、または写経会のみのご参加も歓迎します。

- 2、場 所 無量寺 2 階 本堂にて

- 3、参加費 無 料

写経用紙（和紙）は準備しております。（実費をお願いします。）

用具は各自お好みのもの

（筆、すずり、墨汁、サインペン等）をご持参ください。

筆ペンを多少準備しております。

納経を希望される方は 納経料 1 巻 1,000 円をご志納下さい。

（納経料は積み立てて、観音様建立の資金といたします。）

最後の別れ

江戸時代から村落では、村の習慣や掟に従わない者や、犯罪を犯した者を仲間はずれにして制裁を加えたといえます。このことを村八分といいます。

農耕社会で仲間はずれにされるということとは、耕作作業を手伝ってもらえないことをはじめ、生活に直結する一大事であったろうと思います。

しかし、仲間はずれにされている家に対しても、葬式と火事の時だけは助け合うところから村八分といわれたそうです。村で火事を出せば他の家屋に燃え移ったりして被害も大きくなるから、村人が消火活動を手助けすることも大事でしょう。家を失った家人を助けたりもしたのでしょう。葬式は人生最後のことから、それだけは見過ごすことをしなかつたのでしょう。

近年、都市化が進み人と人の繋がりが薄くなったのか、あるいは人に迷惑をかけたくな

いという思いからなのかわかりませんが、結婚式など冠婚葬祭を地味にすることが多くなっているように思われます。

もちろん経済的な理由もあるからかもしれませんが。この数年のことですが、葬儀に際してもお付合いのあった人たちになるだけ知らせないでおうという風潮がでてきたように感じます。理由を考えてみるといくつか思い当たります。

故人が高齢になり友人や親族が少ない場合、子供の住居に移り住み、地域との交流が少ない場合、故人が生前より派手な葬儀をしないよう子供さんたちに話しておられることも多いようです。しかし、実際に遺族でそのように話合われて、いざ葬儀を出してみ

ると、案外多くの方がどこからか聞きつけて参列されることも結構あります。葬儀は故人本人に対してお参りされることはもちろん、遺族に対して、お悔やみの気持ちを伝える為に足を運ばれることも多いの

です。あるお宅でご隠居さんがなくなった時、喪主は日頃、お世話になっていて人にもなるべく迷惑をかけないようにという配慮から日曜日に葬儀をされたことがありました。

式にはお知らせがいつてない為、参列者はわずかでした。数日後にお参りに行くと、「葬儀の後たくさんの方が弔問にこられて、応対に大変でした。中には、お知らせもしてもらえないような間柄ではないと思っていましたと、残念がられた方もいらっしゃいました。こんなになるのならちゃんとお知らせして葬儀をすればよかったと思います。」と後悔されていきました。

この世でのお別れはきちんとする方がいいのではないのでしょうか？

葬儀を盛大にするという意味ではなく、人の心はまだまだ暖かいものだと思えるからなのです。

元祖法然上人 800 年大遠忌おまちうけ法要

総本山知恩院おてつき運動推進大会・浄土宗福岡教区檀信徒研修会

平成22年10月26日(火)

福岡サンパレス

12時開場 / 13時開会 / 16時20分閉会予定

主な内容

ご垂示 総本山知恩院御門主 坪井俊映 猊下
 大本山善導寺御法主 阿川文正 台下
 講演 漫画家 長谷川法世氏
 舞楽 浄土宗福岡雅楽会「鎮西楽所」



法要の日にはこの駐車場も利用できます。

南門前の駐車場を整備しました。



分別してゴミかごへ

枯れ花や造花は分けて入れて下さい。
 紙類やビニール・セロファンも分けて下さい。ご協力をお願いします。



メールアドレス登録 QRコード (携帯電話等で読み取って下さい)

<http://muryoji.net/touroku>

メールアドレスを登録していただくと、「回向が無事終わりました」などのお知らせをいたします。